令和６年度 大阪府立豊中支援学校 第３回 学校運営協議会記録

１、日時：令和７年２月５日（水）10：30－11：40
２、場所：本校調理室
３、構成：＜ 委員 ＞ ４名
＜事務局＞ 校長、教頭２名、事務長、首席２名、教諭１名
＜ 傍聴 ＞ なし
４、内容

10:30	第３回協議会次第説明 校長挨拶	（ 事務局 ） （ 校 長 ）
10:35	報告及び協議、質疑応答 ・学校経営計画に関する進捗報告 「支援学校のセンター的機能充実事業の取組について」 ・学校教育自己診断、学校生活アンケートの集計結果について ・令和６年度 学校経営計画及び学校評価 ・令和７年度 学校経営計画	（ 委員長 ） （ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞｽﾀｯﾌ） （ 首 席 ） （ 校 長 ）
11:30	事務連絡	（ 事務局 ）

上記のとおり報告等を行い、各委員より次のような意見をいただいた。

学校経営計画に関する進捗報告

◎支援学校のセンター的機能充実事業の取組について

＜委員より＞

・センター的機能とは、地域の学校の支援教育力をあげていく意味もあり、それができていると感じた。
・フォローアップとして「１か月後」の表を渡し、評価する機会をもつなどの工夫も考えられる。
・回ごとにテーマを決めて実施する工夫もある。例えば、１回目は就学前を対象とした教育委員会の施設や療育の枠などについて市のリーディングチームの方や関係機関の方に講師を願う。２回目は卒業をめざして、就労・支援センターの方や自立支援事業所等を講師としたり、進路については近隣の高校の教員を講師とするなど、テーマをしぼってお話していただく、という工夫も検討してみては。
・A 市では初めて支援学級を担当する教員が多く、教育力向上が課題になっている。
支援学校の力を借りながら、向上につなげていってもらいたい。
・一般の公立高校や私立高校の教員において、卒業後の進路の情報が乏しく、知らない教員が多い。
本校の取組を活用して情報を取り入れていくシステムの確立をしていってほしい。

学校教育自己診断、学校生活アンケートの集計結果について

＜委員より＞

・学校は頼れる場所である。
・回答率を見て、保護者向けアンケートの内容について、各学部でニュアンスが違うので同じ文言だと回答のしづらさがあり、偏りが出るのかなと感じた。
・教員の情報共有交換は難しい面もある。支援学校は小・中・高の一貫校でもあるので、長期にわたって子どもの様子を研究できるなど個の状況に応じた研究をしていくのも改善の一つではないかと考える。

・ICT 教育の取組については、よく取り組んでいると思うが、取り組んでいる内容が伝わりきれていないと感じる。発信の工夫をするとよい。
・子どもたちのアンケート結果では、障がい特性からの行動がうかがえる。おおむね安心して通えている・楽しく過ごせている、と一定評価はできると考える。
・環境面は、人数が多い中で学校は最大限やっている。

令和７年度　学校経営計画について

＜学校より＞
・教員の専門性では、初任期後半の教員が教育実習指導教員を担当し、自身の授業力向上を図る。
・安全で安心な学校づくりでは、食育について新たに項目に入れた。
・開かれた学校づくり・センター的機能の発揮では、オンデマンドの活用に移行していく。

＜委員より＞
・教員の専門性において、A 市は、大阪府のように特別支援教育の免許所持が条件ではないため、専門性は低い。支援学級が増えると担当する専門教員の人手が足らない。そこをセンター的機能で補い、各市町がそれを受けて研修をしていく構図を築いていけたらいいなと思う。
・大学側も特別支援教育の免許取得の取組をしている。教育実習では各支援学校でお世話になっている。大阪府全体では免許保有率も向上している。認定講習では支援学級や通級担当の教員の受講が増えてきた。支援学級は特別支援教育の免許がなくてもできることになっているので、そこは、センター的機能で連携していくことが大事である。

全体を振り返っての感想・意見

＜委員より＞
・50 周年記念式典に出席した。子どもたちと教職員が一体となって取り組んでいた。児童生徒数が多い中、子どもたちと一緒につくりあげていく、というのが感じられた素敵な式典であった。日頃先生たちががんばっていることが光っている印象を受けた。
・学校はできることをしっかりと行えている。PTA からも良い評価をもらえている。
・先生への期待が大きくなっていて大変になってきていると感じている。
・友光会への参加が減ってきて運営が厳しくなってきている。しかし、20 歳を祝う会などで、久しぶりに旧友と会えて喜ぶ姿を見ると存続を頑張ろうとも思う。